

# 橋本健一郎氏の3月銅スクラップレポート及び4月見通し

■概況：前半は米地区連銀報告書(ページブック)で「米景気はおだやかに回復ペース」との記載があったことや米失業率が+7.7%と前回の7.9%以下だったこと、また2月の米小売売上高が+1.1%とこちらも予測の+0.6%を上回るなど好材料もあったがLMEの在庫が3年ぶりに50万t

を上回ったことや日米の株が高値を更新する中、対ドル・円でのユーロ安を嫌気し7762ドル(セツル)と前月最終価格より69ドル下げたの前半締めとなった。

後半はキプロスとEUでの金融支援合意が決定した事や米の量的緩和長期化観測、2月の米需

み需要など今後の動向に注目。伸銅品生産量は前年比-4.8%の5万5760tと5カ月連続マイナス。前月に続き自動車生産の悪化が原因との見解。銅電線出荷量は、前年比-6.2%の55760tと3カ月連続マイナス。通信・自動車・輸出の減少幅の拡大が影響したとの見解。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比+19.7%の5万6285tと大幅増加。銅スクラップは-9.5%の2万3956t。前月に続き、円安や電線、伸銅品、板条などの国内生産減少のため、輸出に向けられた影響との見解。輸入は電気銅が+11.8%の1422t。スクラップは-11%の5434t。大幅な円安による割高感や内需の力強さがまだ出てきてないことから全体では減少となった。

銅需要に関して円安や株価急騰によりここ最近センチメントは大幅改善された。また先月までは決算の関係で買い控えがあったものの、アベノミクスによる新年度入りの公共事業や復興需要の増加などからメーカーは買い気配。また銅価格に関しては新規材料としてキプロス債務問題が台頭、規模的には欧州総GDPの0.2%と影響は少ないがEUとの支援合意内容の預金課税について今後の救済モデルになるのではとの先行き不安もある。また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れておりコモディティ(商品)への流入がみられないことから上値は3月高値付近の7900ドルを予測。下値はNYダウの最高値更新や日経の高値、更に湧いた先月であったが結局、銅は7900ドルを超えなかったことによる狼狽売りやキプロス不安からもう一段下の7400ドルを予測。銅建値に関しては73-78万円程度と予測。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-15.1%の86万8194台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-15.6%の42万69台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+3%の6万8969戸であった。また貿易関連指標では、財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が+19.7%の5万6285t、スクラップが-9.5%の2万3956t。輸入は電気銅が前年比+11.8%の1422t、スクラップ-14%の5434t。また前月の国内指標では、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-4.8%の5万61010t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)では前年比-6.2%の5万5700tであった。

■見通し：3月は、欧州の小国キプロスショック(債務危機)に揺れた1カ月間となった。EUとの支援条件、預金課税の自身について議会で否決。その後 ロシアに救済を求めると一進一退するも結局 株主の一部負担や高額預金者への課税を条件にEUと合意。ただ、株主負担や高額預金者負担が今後の銀行救済モデルのデフォルトになるのではとの危惧が台頭。今後の動向に注目。

前月の各指標をみると、自動車生産は前年比-15.1%2桁悪化の6カ月連続マイナス、販売の方もほぼ前月から減少幅悪化の-15.6%とエコカー減税終了の反動もあるがまだまだ減少基調。住宅関連は先月に続き6カ月連続増加 前年比+3%(前月比(季節調整済み)+9.4%)の6万8969戸。復興需要や消費税アップ前の駆け込

み需要など今後の動向に注目。伸銅品生産量は前年比-4.8%の5万5760tと5カ月連続マイナス。前月に続き自動車生産の悪化が原因との見解。銅電線出荷量は、前年比-6.2%の55760tと3カ月連続マイナス。通信・自動車・輸出の減少幅の拡大が影響したとの見解。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比+19.7%の5万6285tと大幅増加。銅スクラップは-9.5%の2万3956t。前月に続き、円安や電線、伸銅品、板条などの国内生産減少のため、輸出に向けられた影響との見解。輸入は電気銅が+11.8%の1422t。スクラップは-11%の5434t。大幅な円安による割高感や内需の力強さがまだ出てきてないことから全体では減少となった。

銅需要に関して円安や株価急騰によりここ最近センチメントは大幅改善された。また先月までは決算の関係で買い控えがあったものの、アベノミクスによる新年度入りの公共事業や復興需要の増加などからメーカーは買い気配。また銅価格に関しては新規材料としてキプロス債務問題が台頭、規模的には欧州総GDPの0.2%と影響は少ないがEUとの支援合意内容の預金課税について今後の救済モデルになるのではとの先行き不安もある。また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れておりコモディティ(商品)への流入がみられないことから上値は3月高値付近の7900ドルを予測。下値はNYダウの最高値更新や日経の高値、更に湧いた先月であったが結局、銅は7900ドルを超えなかったことによる狼狽売りやキプロス不安からもう一段下の7400ドルを予測。銅建値に関しては73-78万円程度と予測。

輸出品	12月	1月	2月
電気銅	43407t	4万6285t	5万6285t
前年比	+20.4%	+65.1%	+19.7%
スクラップ	2万9788t	2万3471t	2万3956t
前年比	+16%	+74.1%	-9.5%

	12月	1月	2月
生産台数	70万2268台	75万4054台	86万8194台
前年比	-17.2%	-9.9%	-15.1%
	1月	2月	3月
販売台数	22万9333台	29万2453台	42万69台
前年比	-12.9%	-12.2%	-15.6%
	12月	1月	2月
新設住宅着工数	7万6944戸	6万9289戸	6万8969戸
前年比	+10%	+5%	+3%
輸入	12月	1月	2月
電気銅	2600t	2123t	1422t
前年比	-28.7%	-43.6%	+11.8%
スクラップ	5359t	5339t	5434t
前年比	+4.8%	-15.1%	-14%

